



生誕100年・三島由紀夫

薦屋重三郎の世界

みんなで飾ったクリスマスツリー

雪まつり企画 第2回チンコロ博

本のちから(10)



受験生のお守り!? ~ご当地マンホールカード~

みなさん、ご当地マンホール、もしくはデザインマンホールというものをご存じですか？これは日本全国に存在する、各地域の自然や風景、歴史や伝統などをデザインとして取り入れたマンホールの蓋（ふた）のことです。日本では、1977（昭和52）年に沖縄の下水道整備の一環として那覇市の職員が考案した、魚（魚群）をデザインしたものが始まりといわれています。1980年代に入り、下水道のイメージアップや理解を深めることを目的として建設省がオリジナルマンホールを提唱したことから、各地でデザイン化が進みました。世界でも珍しいデザインのマンホール蓋は見られますが日本ほど凝ったものではなく、「世界に誇る日本の文化」ともいわれています。

このマンホールデザインをカード化したものが、ご当地マンホールカード、略してマンホールカードです。企画・監修・発行は、下水道広報プラットフォーム（GKP）です。現代人の生活にとってなくてはならないものの、良くないイメージがある下水道のイメージアップのため、国土交通省の働きかけで関係者が集結。2012（平成24）年にGKPが発足してアイデアを出しあった結果、面白いマンホールのデザインをカードにしようということになりました。

カード表面には蓋の写真と、デザイン管理ナンバー、所在地、位置座標などが、裏面にはデザインの由来が記載されています。2016（平成28）年から第1弾の配布が始まり、2024（令和6）年12月20日から配布されている第24弾では初参画となる10自治体を含む37種のカードを発行。カード総数は1113種（724自治体、3団体）となり、累計発行枚数は1,400万枚にも達しました。

デザインマンホールのユニークさや美しさに惹かれて全国各地を訪ね歩き、SNSを通じてコミュニケーションをとるマンホールファン（通称マンホールラー）も急増。また、丸い蓋はどの向きでも中に落ちることがないこと、蓋には凹凸があって滑りにくくなっていることから、合格祈願のお守りにもなっています。新潟県内でも、小千谷市では「ニシキゴイ」や「片貝まつりの四尺玉花火」をデザインした特製カードに、「気持ちが傾いても『落ちない』で大きく深呼吸」などと合格の願いを込めたメッセージを添えて配布しました（12/21で終了しました）。長岡市でも、職員が心を込めて作製した「合格祈願マンホールカード（火焰型土器）入りお守り」を配布しています。

カードではありませんが、長岡市では、下水道事業の100周年を記念し、越路地域出身の漫画家と月伸宏さんの人気漫画『るろうに剣心』のキャラクターをデザインしたマンホール蓋を2025（令和7）年4月ごろに設置する予定です。また、南魚沼市では昨年8月、バンダイナムコグループの「ガンダムプロジェクト」が企画する「ガンダムマンホールプロジェクト」より、2種類の「ガンダムマンホール」を寄贈されました。「ガンダム」と「コシヒカリ田園風景」をデザインした蓋が道の駅南魚沼「雪あかり」に、「ギャン（モビルスーツ）」と「八海山」をあしらった蓋が南魚沼市図書館の返却ボックス前に設置されています。

十日町市にも、3種類のマンホールカードがあります。まず2018（平成30）年4月に、第7弾として旧松代町の花「ユキツバキ」と「松代城」をデザインしたマンホールカードが登場（配布場所は松代・松之山温泉観光案内所 ※道の駅まつだいのふさと会館内）。同年8月の第8弾では清津峡溪谷と旧中里村の花「ユリ」が（配布場所は4～9月は清津峡溪谷トンネルエントランスPeriscope、10～3月はミオン中里、※木曜休館日ゆくら妻有）、2020（令和2）年12月の第13弾では国宝・火焰型土器をデザインしたマンホールカードが製作され、情報館のとなりの十日町市博物館で配られています。

マンホールカードは、全国各地の下水道関連施設や観光案内所などで無料配布されています。すべてのデザインがご当地モノでオリジナルのマンホールカード、みなさんも集めてみませんか。これからの受験シーズンにもぴったりです。詳しい配布場所は、各自治体やGKPのホームページなどでご確認ください。（田口）

【参考】

『デザインマンホール100選』池上修／著、アットワークス、2014
『マンホールカードコレクション 2』下水道広報プラットフォーム／著、スモール出版、2018
十日町市公式ホームページ



ユキツバキと松代城



清津峡溪谷とユリ



国宝・火焰型土器

編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL／025-750-5100 FAX／025-750-5103

「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook



1月のテーマ図書

■第172回 芥川賞・直木賞候補作決定

令和6年度下半期の芥川賞・直木賞の候補作が発表されました。関連コーナーを2階新着コーナー向かいに展開中です。結果発表は令和7年1月15日(水)。

【芥川龍之介賞】

安堂ホセ『D'TOPIA』(河出書房新社)

鈴木結生「ゲートはすべてを言った」
(『小説トリッパー』秋季号)

竹中優子「ダンス」(『新潮』11月号)

永方佑樹「字滑り」(『文藝春秋』10月号)

乗代雄介「二十四五」(『群像』12月号)



【直木三十五賞】 ※単行本化作品

朝倉かすみ『よむよむかたる』(文藝春秋) **所蔵あり**

伊与原新『藍を継ぐ海』(新潮社) **所蔵あり**

荻堂顕『飽くなき地景』(KADOKAWA)

木下昌輝『秘色の契り 阿波宝暦明和の変顔末譚』
(徳間書店)

月村了衛『虚の伽藍』(新潮社) **所蔵あり**

■生誕100年・三島由紀夫

戦後日本の文学界を代表する作家のひとりで、ノーベル文学賞候補になるなど日本国外においても広く認められた三島由紀夫が生まれて100年が経ちます。

三島由紀夫は1925年、東京生まれ。本名、平岡公威(ひらおか・きみたけ)。1949年の最初の書き下ろし長編『仮面の告白』で作家としての地位を確立。主な著書に『潮騒』、『金閣寺』、『サド侯爵夫人』などがあります。1970年11月25日、「豊饒の海」シリーズの第4巻『天人五衰』の最終回原稿を書き上げた後、自衛隊市ヶ谷駐屯地で自決しました。

三島由紀夫の特設コーナーは2階新着コーナー向かいです。



豊饒の海第1巻『春の雪』
(新潮文庫)

■児童向け

よいとし あたらしいとし

『おせちりょうり』、『へびのクリクター』など、お正月や干支(えと)に関する本を紹介します。



ゆきやこんこ

『やあゆきだるま!』、『ふゆのあとにははるがきます』など、冬がテーマの本を紹介します。



■一般向け

あったまろう

『ひとり温泉おいしいごはん』、『薪ストーブデビュー』など、身も心も温まる本を紹介します。

プレイバック2024

『大谷翔平ロングインタビュー』など、2024年に出版された本、話題になった本を紹介します。

■蔦屋重三郎の世界

2025年のNHK大河ドラマは「べらぼう〜蔦重栄華乃夢斬〜」。主人公は、江戸時代中期から後期にかけて活動した蔦重こと蔦屋重三郎です。彼は版元として化政文化隆盛の一翼を担うとともに、大田南畝、恋川春町、山東京伝、曲亭馬琴、喜多川歌麿、葛飾北斎、東洲斎写楽など、多くの作家や浮世絵師の作品刊行に携わり、彼らをプロデュースした文化の立役者でもありました。

日本のメディア産業、ポップカルチャーの礎を築いたといわれる蔦屋重三郎と、江戸の出版文化を特集したコーナーを設置しています。場所は2階カウンター正面です。



みんなで飾ったクリスマスツリー

サンタさんへのおねがいごと、おすすめの本、今年の思い出など、みなさんから自由に書いてもらったオーナメント・カードで、情報館のクリスマスツリーがすてきに飾られました。2025年もみなさんにとって良い年でありますように。



スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その52

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

早いもので令和も7年目に入りました。情報館では毎年、その年のNHK大河ドラマに関連するテーマコーナーを設けています。昨年も『光る君へ』にちなみ、紫式部や源氏物語などの本を紹介し、多くの方から手に取っていただきました。

さて、今年の大河ドラマは、江戸時代中期に浮世絵の黄金期を築き、“江戸のメディア王”と称される蔦屋重三郎が主人公の『べらぼう』。テーマコーナーでは、吉原の貸本屋から身を興して版元となり、お上に睨まれながらも信念を貫いた重三郎の波乱万丈の生涯や、彼が送り出した絵師たち、江戸の文化に関する資料などを紹介する予定です。どうぞお楽しみに。(中山)



本のちから(10)

ガンジーからの贈り物

私が中学生のころ、ユニークな美術の先生がいっぱいいました。授業のはじめにいつも面白いお話をしてくださるのを、私たち生徒は楽しみにしていました。内容は決まって「ウチの60キロが…」ではじまる、奥様の愉快なエピソードでした。

お顔が似ているということから、あだ名は「ガンジー」。生徒たちからも親しまれ、代々の先輩方から受け継がれてきたあだ名でした。美術の時間には、校庭に写生に行くことも、美術室で作業することもありましたが、教室での作業の時は、ときどきこの先生が読み聞かせをしてくださいました。ゆったりと時間が流れている時代でした。

教室では、先生の読み聞かせの声と彫刻刀で削る音のみが静かに響いていました。窓にかけられた白いカーテンが風に揺られ、柔らかな光が差し込むなか、みんなが黙々と作業に没頭していた風景が思い出されます。読み聞かせを聞きながらの作業は心地よく集中でき、1時間があっという間でした。なんと穏やかで贅沢な時間だったのでしょ。

子ども読書活動推進コーディネーター 林 篤子

それから自分が読み聞かせをする立場になり、20年が過ぎました。ふと、私が読み聞かせをしようと思った理由のひとつは、「ガンジー」かもしれないと思いました。読み聞かせはお話の世界を知ることはもちろんですが、心を整える効果もあると子どもたちの様子を見て実感します。そのたびに記憶のなかにある美術の時間を思い出します。先生が私たちにしてくださったように、子どもたちの心が落ち着いた状態で1日をスタートするお手伝いができたなら、そんな思いで朝の読み聞かせをしています。

今でもときどき、風に揺れる教室のカーテンの光景と、静かに聞こえてくる先生の低い声を思い出します。長い年月を経てもなお、心に残る素晴らしい授業をしてくださった先生に感謝の気持ちを込めて。

1月19日(日)は家読(うちどく)の日

「家読(うちどく)」は「家庭読書」の略で、「家族ふれあい読書」の意味です。毎月第3日曜日は家族で読書を楽しみましょう。

スタッフのおすすめ本(村山)

『うたわない女はいない』 働く三十六歌仙／著 中央公論新社

さまざまな職に就く女性歌人36名が、「労働」をテーマに詠んだ短歌をまとめた歌集です。各々が選んだ8首と、作者の背景などのエッセイという構成で、それぞれの仕事現場での苦楽が歌に滲んでいることに気づかされます。お気に入りの歌をいくつか紹介します。

一部を一尾と打ち間違えてつぎつぎに海老に変わってゆく書類たち
(佐伯紺・人材派遣会社勤務)

正社員だけが使える冷蔵庫に冷やしてみたいチョコとプライド
(寺井奈緒美・パート・土人形作家)

日曜のにぎわいのまま残された寝ている本を起こしてまわる (谷じゃこ・図書館司書)
残業は罪かそれとも快楽か母でも妻でもないわが時間 (奥村知世・工場勤務)

女性であること、非正規雇用者であることなどの葛藤が描かれる作品も多いのですが、ただ悲観するのではなく、時に自虐的にユーモアを盛り込んだ歌として昇華する彼女たちに共感し、元気をもらえる1冊です。

(村山)



新着資料紹介 11月21日～12月20日分

【一般図書】

●『「本」とともに地域で生きる』南陀楼綾繁／著 大正大学出版会(総記024ナ) ●『蔦屋重三郎』増田晶文／著 新潮社(歴史地理 289ツ) ●『ルポ学校がつまらない』小林美希／著 岩波書店(社会 376コ) ●『観葉植物を枯らさないための本』ヴェロニカ・ピアレス／著 グラフィック社(園芸 627ピ) ●『名曲の曲名』茂木大輔／著 音楽之友社(芸スポ 760モ) ●『ひまわり』新川帆立／著 幻冬舎(日文 913.6シ) ●『眠れない夜のために』千早茜／著 平凡社(日文 913.6チ) ●『張良』宮城谷昌光／著 中央公論新社(日文 913.6ミ) ●『別れを告げない』ハンガン／著 白水社(外文 929ハ)

【児童図書】

●『「植物」をやめた植物たち』末次健司／文・写真 福音館書店(児童一般 471ス) ●『いかだネコG氏12のぼうけん』山下明生／作 あかね書房(児童日文 913ヤ) ●『森に帰らなかったカラス』ジーン・ウィリス／作 徳間書店(児童外文 933ウ) ●『おめんです 4』いしかわこうじ／作・絵 偕成社(赤ちゃん絵本 Eイ) ●『おなじところちがうところ』嶽まいこ／絵 くもん出版(絵本 Eダ) ●『モモ 絵本版』シモーナ・チェッカレッリ／絵 光文社(絵本 Eチ) ●『はたらく図書館』吉田亮人／写真 創元社(絵本 Eヨ)

【地域資料】

●『節黒城風雲録』渡辺正範／著 「節黒城跡開山祭り」50周年記念事業実行委員会(地域ほか T214.1ワ)

2025年新春企画

本をかりれば福がくる

期間中に本を借りると、福笑いセットをプレゼント！館内で遊んでも、持ち帰っておうちで遊んでもOKです。完成した福笑いは館内に飾らせてもらいます。

セットは数量限定につき、お早めにごうそ！



期間／1月4日(土)～12日(日)

※なくなり次第終了

場所／1階児童コーナー、川西分室、松代分室

※川西分室は7日(火)、松代分室は6日(月)は休館です

対象／小学生まで(1日ひとり1セット)

閉架書庫公開

1月はお休みします

【今後の公開予定】2/23(日)、3/16(日)



豆まき

コロナ禍で中止していた情報館名物の豆まきが6年ぶりに復活！

子どもから大人まで、どなたでも参加していただけます。



日時／2月1日(土)

午前11時から

場所／1階スロープ前

参加費／無料



小千谷市ひと・まち・文化共創拠点

「ホントカ。」

十日町市民も利用登録することができます

◇利用できるサービス

- 図書館資料の貸出 ●予約(所蔵のある資料)
- インターネットサービス など

◇登録方法

利用登録条件を確認できるもの(運転免許証、マイナンバーカード、社員証、学生証など)をお持ちのうえ、「ホントカ。」で登録手続きをお願いします。

小千谷市ひと・まち・文化拠点「ホントカ。」

- 所在地／小千谷市本町1-13-35
- 開館時間／午前9時～午後10時
- 休館日／第2・第4火曜日、年末年始(12/29～1/3)
- 電話／0258-82-2724

※小千谷市民も十日町情報館の利用登録をすることができます。詳しくは各施設のホームページ等でご確認ください。



第76回十日町雪まつり企画

第2回 チンコロ博



☆あつまれ！チンコロ大集合！

みんながつくったチンコロが情報館に大集合！十日町に伝わる伝統的なチンコロから、独創性がある個性豊かな作品まで、雪国の縁起物「チンコロ」の世界を情報館で堪能できます！

展示期間／2月15日(土)～23日(日)

場所／1階スロープ前

☆チンコロ募集！

展示するチンコロを募集します。個人はもちろん、家族や団体でもOK！詳しくは募集要項をご覧ください。



前回の様子



※雪まつり当日、情報館では他にも楽しいイベントを企画中です。お楽しみに！

1月のおはなし会

◆情報館

4日(土)・11日(土)

／おはなしぴよぴよ(乳幼児)

18日(土)／読み聞かせの会 どんぐり

(幼児～小学校低学年)

25日(土)／おはなし「たまてばこ」(乳幼児)

◆川西分室

18日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)

◆松代分室

11日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)



資料保護のお願い

本やCD・DVDなどは室内と屋外の温度差により結露し、故障や劣化につながるおそれがあります。また雨や雪で濡れた本は、利用ができなくなる場合もあります。屋外での持ち運びには、バックや袋に入れるなどの保護をお願いします。

1月の開館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103